学士課程教育における自己点検とその改善に関する年次報告書（総評）

医学部

１．評価結果一覧

自己点検・評価単位	分析項目 1-1-1	分析項目 2-1-1	分析項目 2-1-2	分析項目 2-2-1	分析項目 2-2-2	分析項目 3-1-1	分析項目 4-1-1	分析項目 4-2-1	分析項目 4-2-2	分析項目 5-1-1	分析項目 5-1-2	分析項目 5-2-1
医学プログラム	5	5	4	4	4	5	4	4	5	4	4	5
看護学プログラム	4	4	4	4	4	5	4	5	3	4	3	5
理学療法学プログラム	4	3	3	5	4	4	3	4	4	5	4	5
作業療法学プログラム	5	5	4	5	4	4	4	4	4	4	4	3

自己点検・評価単位	分析項目 6-1-1	分析項目 6-2-1	分析項目 6-3-1	分析項目 6-3-2	分析項目 6-3-3	分析項目 6-4-1	分析項目 6-4-2	分析項目 6-4-3	分析項目 6-5-1	分析項目 6-6-1	分析項目 6-6-2	分析項目 6-6-3
医学プログラム	5	5	5	5	3	4	5	4	4	4	4	5
看護学プログラム	5	5	5	5	3	5	5	5	5	5	5	5
理学療法学プログラム	5	4	4	3	3	4	3	4	5	4	4	4
作業療法学プログラム	4	4	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4

自己点検・評価単位	分析項目 6-6-4	分析項目 6-6-5	分析項目 7-1-1	分析項目 7-1-2	分析項目 8-1-1	分析項目 8-1-2
医学プログラム	3	5	3	5	3	4
看護学プログラム	3	4	3	5	4	5
理学療法学プログラム	4	4	2	3	4	3
作業療法学プログラム	4	4	2	3	2	3

（⑤十分に適合する　④適合する　③やや適合する　②余り適合しない　①適合しない）

２．評価結果に対する総評

医学プログラム

医学科は平成 30（2018）年 1 月に，日本医学教育評価機構による「医学教育に関する分野別評価」（いわゆる国際認証）を受審し，評価基準に適合していることが認定された。認定時に提示された質向上のための示唆に基づき，さらなる改善のために改革を進めている途上であり，その成果は年次報告書にまとめ提出している。

2021 年度は新型コロナ感染症拡大を受け，卒前教育における感染症教育の充実のためのカリキュラム改革を行った。低学年からの基礎知識の導入や症候診断治療学，臨床実習における課題，仮想現実（VR）を使用した教材の開発などを行った。

また，行動科学，プロフェッショナリズム教育については低学年から受動的な講義ではなく，双方向，グループワークを基本としたカリキュラムの中で主体的に学ぶように工夫している。適宜内容を見直しており，2021 年度も新たに「医療人類学」や「医療におけるやさしい日本語」を導入した。

高学年においても「症候診断治療学」や「高学年 IPE（Interprofessional Education)」などの科目においてグループワークを基本とした学修機会を持っている。

医学教育センターでは学生の相談支援業務を強化しており，学生自身からの相談およびチューターや学生支援室からの相談や面談にも対応している。面談ののち，必要に応じて保健管理センターと連携しながら，継続的な支援を行っている。令和 3（2021）年度はコロナの影響で対面での面談など行いにくい状況であったが，代替策としてオンライン面談を積極的に行った。

学士課程教育の自己点検で挙げられている点検項目は，多くが国際認証の認証項目と重複しており，国際認証に適合後に継続して行ってきているさまざまな改革の成果を反映した自己評価となっている。

看護学プログラム

保健学科看護学専攻・看護学プログラムにおいては概ね基準を満たしている。看護学プログラムは，専門職の養成，国家試験受験資格の付与という明確な達成目標を持ち，4 年間を通して講義，演習，実習，臨地実習と段階的に基礎理論から実践的知識・技能・態度を修得する方法を展開している。新型コロナウイルス感染症パンデミック禍においてもこれらを止めることなく，創意工夫の中で実施した。また，教員が臨床教授等及び臨床指導者と協働して，各学生の到達度を確認し，指導を改善する仕組みを整備していることから，また，学生からの評価も高いことから，肯定的な自己評価となった。

令和 3 年度は，「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」」に基づくカリキュラム改正による新しいカリキュラムの 2 年度目であり，国際化・グローバル化，研究力強化に向け，国際的な教育人材の採用，英語で行う国際看護関連科目・海外での看護活動の単位認定や研究科目において専門科目を開講した。具体的な成果はこれから現れると考える。

理学療法学プログラム

理学療法学プログラムでは，ディプロマ・ポリシー，カリキュラム・ポリシーに基づき，専

門職の理学療法士としての基礎知識，技能，態度を修得させ，科学的思考力と創造性を発揮しうる人材を育成するという達成目標を持ち，教育を展開している。一方で，新型コロナウイルスの感染拡大により，一時期に対面授業や実習が制限される事態となったが，オンラインを中心とした柔軟かつ適切な対応によって，結果として国家試験合格率は昨年度同様に全国平均と比べ高い水準で推移し，大学院進学者も半数以上と保健学科で最も高く，科学的思考力と創造性を兼ね備えた人材育成に取り組めている。さらに入試に関しては，アドミッション・ポリシーに基づき，光り輝き入試総合型選抜（II 型）大学院進学型入試の導入，一般入試での面接試験の導入などの取り組みを含め，質の高い学生の養成にも取り組んでいる。

理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則の改正を受け，優れた学生を受け入れ育てるため，1 年次早期から専門教育を学習できるプログラムや，実習科目の充実など，実用的な体制が整備された新教育課程を作成した。2020 年度入学生より運用を開始し，円滑に運用されている。

各基準に対する振り返りでは，概ね基準を満たしている。昨年度課題に挙げた，分析項目 7-1-1 学部への留学生受入れは，理学療法士という日本の国家資格がかかわる専攻の性質上，現時点では積極的な受入れに至っていないことが課題である。

作業療法学プログラム

現在，高齢化の進展に伴う医療需要の増大や地域包括ケアシステムの構築等によって，作業療法士に求められる役割や知識等が大きく変化しており，作業療法学プログラムでは，ディプロマ・ポリシー，カリキュラム・ポリシーに基づき，こうしたニーズに対応できる専門職としての基礎知識，技能，態度を修得させ，科学的思考力と創造性を発揮しうる人材を育成するという明確な目標を持ち，学部教育を展開している。理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則の改正を受け，令和 2（2020）年度入学生よりその運用を開始した。理学療法学専攻との密な連携により，1 年次早期から専門教育を学習できるプログラムを構築し，実習科目の充実，教育施設・備品の導入を実施することができ，優れた学生を受け入れ，育てるための基盤となる教育プログラムを整備できたと考えている。

しかし，令和 2（2020）年度において，国家試験合格率が全国平均を下回ったことは，教員一同が課題として向き合うべきものであり，令和 3（2021）年度は，国家試験対策 WG を専攻内に立ち上げ，課題分析と学生指導を専攻全体で取り組んだところ，全国平均を大きく上回る結果となった。この取り組みは継続的に行う必要があり，100％の維持を目標に継続する予定である。

加えて，令和 2（2020）年度の課題として，一般選抜(前期日程)で例年をはるかに上回る入学辞退者が出たために欠員補充を行う事態を招いた。この課題に対しては，パンフレットの改訂，専攻のホームページの工夫，動画の作成など，当専攻の魅力をわかりやすく伝えることを主眼に取り組み，志願倍率を例年レベル以上に回復することができ，優れた人材確保の観点からも，発信を続ける必要がある。

他の分析項目として，分析項目 7-1-1 学部への留学生受入れは，作業療法士という日本の国家資格がかかわる専攻の性質上，現時点で積極的な受入れに至っていない。また，領域 8 のリカ

レント教育については，地域住民の関心が高い健康寿命の延長，介護予防，リハビリテーションをテーマとしたプログラムの設置について，継続的な検討を重ねている。